



「麻布未来写真館」

ファインダーをとおして、未来に向けた新しい麻布を発信していきます。

麻布を語る会「麻布未来写真館」分科会
平成24年度活動報告
港区麻布地区総合支所

はじめに

本活動報告は、港区麻布地区総合支所の地域事業「麻布未来写真館」において、区民参画組織「麻布を語る会『麻布未来写真館』分科会」が、平成 24 年度に取り組んだ活動の記録です。

「ファインダーをとおして、未来に向けた新しい麻布を発信していきます。」

写真には写された記録だけではなく、多くの人々にとっての体験の「記憶」をも含められた、かけがえのない価値が備わっています。

本活動報告に掲載された写真は、新しいものも古いものも全て、ファインダーをとおして「麻布」をめぐる様々な人々の記憶を未来につなぐ貴重な記録です。

麻布の未来に向け、麻布地区総合支所は、多くの方々に記録と記憶の価値を伝え、区民の皆様への地域への共感や愛着をより一層高めてもらえるよう取り組んでまいります。

活動を進めるにあたり、様々なかたちでご尽力をいただきました関係者の皆様に、心から御礼を申し上げます。

平成 25 年 3 月 港区麻布地区総合支所協働推進課

《 目 次 》

I. 分科会活動の概要	01
「麻布未来写真館」とは	01
パネル展等の開催	02
II. 分科会メンバー作成パネルの紹介	05
パネルの作成	05
(今年度作成したパネル)	06
III. これまでの活動を振り返って	34
メンバーのことば	34
IV. 参考資料	39

区民参画組織「麻布を語る会」とは

港区麻布地区総合支所では、平成 18 年に新たな総合支所制度を導入して以来、地域に住み、働き、学び、活動する多くの人々が区政に参加し、地区の課題の解決策や将来について、ともに議論し、協働によって目標を達成していく「参画」と「協働」の取組に力を入れてきました。

「麻布を語る会」とは、区民の参画と協働により、麻布地区の将来像「生活者優先の、安全で安心して快適に住み続けられる国際・文化都市」の実現に向け、区民主体の検討や取組を進めるために設置された麻布地区の区民参画組織です。

メンバーは、麻布地区内に居住、勤務、在学し、又は麻布地区のために活動したい公募区民によって構成され、平成 25 年 3 月現在、「麻布未来写真館」・「麻布地区版基本計画策定」・「地域情報の発信」・「協働事業提案制度」の 4 つのテーマに分かれて分科会を設置し、それぞれ活発な取組を進めています。

「麻布未来写真館」とは

麻布未来写真館事業実施の背景

麻布地区は、区内にある大使館の半数以上が集中し、外資系企業も多く立地するなど、国際的な「まち」です。また、外国人が多く利用する六本木の繁華街は、麻布の「まち」の国際的な魅力を高めることに貢献しています。麻布には由緒ある寺院や、毛利庭園のように大名屋敷の面影を今に残す庭園や、小説や落語に登場する坂や町名も多く残る歴史と文化の「まち」でもあります。

一方、アークヒルズ、泉ガーデンや六本木ヒルズ等に代表されるように、大規模なまちづくりによって「まち」が大きく変化しています。こうした大規模なまちづくりにより、貴重な歴史的資産や文化資産が喪失することがないようにするとともに、外国人を含む、麻布に暮らす多くの人々に麻布の歴史や文化をもっと知ってもらい、麻布の「まち」をより身近に感じ、愛着を感じてもらうための取組が重要です。

事業の趣旨

港区麻布地区総合支所では、平成 21 年度から区民や企業、大学等と協働し、麻布地区の昔の写真などを収集するとともに、定点写真を撮影し、麻布のまちの変化を保存する取組として「麻布未来写真館」事業を運営しています。

当事業は、麻布地区の資料収集・保存していくことを通じて、麻布地区に暮らす人々にとって身近な歴史・文化資源を保全・継承するとともに、より一層の活用を目的としています。

同時に、「まち」の歴史や文化をより多くの皆様に知っていただき、麻布地区への愛着を深めていただく一助となることを目指しています。

区民との協働事業

平成 24 年度は、広報紙等の募集を通じて集まった区民参画組織「麻布を語る会『麻布未来写真館』分科会」のメンバーとともに、地元企業等の協力を受けながら、撮影テーマ・箇所選定のためのワークショップ、まち歩き・撮影等を実施し、3 会期に分けてパネル展を開催しました。

また、平成 21 年度から「麻布未来写真館」では、区民や企業、大学等と協働し、麻布地区の昔の写真などを収集しています。

今年度までに収集した写真は、各パネル展等で活用し、多くの方々に麻布地区の歴史・文化を知っていただくための一助となりました。

麻布を語る会「麻布未来写真館」分科会メンバー（平成 25 年 3 月 1 日現在）

天羽 大器、入江 誠、岡崎 純子、小山 浩（副座長）、近藤 敏康（座長）、櫻井 綾、鈴木 順二、椿 由美子、増子 照孔、水野 禮子、横島 久子、渡辺美恵子

I 分科会活動の概要

パネル展等の開催

「麻布未来写真館」事業の一環として、これまでに引き続き開催した「パネル展」では、分科会活動の中で検討したテーマに基づき、メンバーが作成したパネルを展示しました。

事業開始から4か年目を迎え、分科会メンバーの尽力とともに、地域の様々な方々から、写真等のご提供、多大なご支援とご協力を賜り、質・内容とも従前にまさる展示内容とすることができました。今年度はパネル展を3期にわたり、延べ5会場で開催しました。

また、常設の展示として、有栖川宮記念公園管理事務所の掲示スペース及び港区麻布地区総合支所2階の区民協働スペース協の通路での展示を行いました。

パネル展スケジュール

◆第1期パネル展

日時：平成25年2月1日（金）～2月14日（木）10:00～19:00

会場：フジフィルム スクエア ミニギャラリー

※最終日は16:00まで

◆第2期パネル展

日時：平成25年2月12日（火）～2月22日（金）9:00～17:00

会場：東洋英和女学院 本部・大学院棟 1階 史料展示コーナー

ありすの杜南麻布 1階 地域交流スペース

港区麻布地区総合支所 1階 ロビー

※東洋英和女学院は、日曜日休み、最終日16:00まで

◆第3期パネル展

日時：平成25年3月4日（月）～3月15日（金）9:00～17:00

会場：港区役所 1階 ロビー

※土曜日・日曜日休み



第1期パネル展ポスター



第2期・第3期パネル展ポスター

パネル展等の様子



フジフィルム スクエア ミニギャラリー



フジフィルム スクエア ミニギャラリー



東洋英和女学院 史料展示コーナー



ありすの杜南麻布 地域交流スペース



港区麻布地区総合支所 ロビー



港区役所 ロビー



有栖川宮記念公園管理事務所掲示スペース



港区麻布地区総合支所 2階通路スペース

会場提供等、ご協力をいただいた方々からのメッセージ

山本 佳之（フジフィルム スクエア 館長）

フジフィルム スクエアでは、本年も2月1日（金）から2月14日（木）まで「麻布未来写真館」のパネル展示をさせていただきました。この展示も回を重ねるごとに、楽しみにして下さる方が増えて人気の展示となっております。

活気がある麻布のまちは、ほんの数年の間にどんどん変化していき、私たちも「あれ？こんな建物があつたんだ」と思うことがしばしばです。だからこそ、この事業は記録的価値の高いものであり、我々が常日頃からお客様にお伝えしていきたいと考える「写真の記録的価値」を多くの方に見ていただけたと思います。

私どもも引き続き地域の皆様と一緒に麻布の過去・現在・そして未来への記録を見続けていきたいと存じます。

酒井 ふみよ（東洋英和女学院史料室）

今回は私どもの史料展示コーナーを「麻布未来写真館」のパネル展示に提供するのも3回目となり、少し慣れてきましたので本校で所蔵している近隣の写った古い写真を探し、新旧を比較して独自にパネルを作成して参加しました。

今まで人物ばかりに注目していた写真も見方を変えて背景に注目してみたり、学校前を通るお祭りの様子から神社を探索して新しい発見もありました。東洋英和女学院が麻布のこの地に歴史を重ねてこられたことを改めて感謝し、今後も役割を果たしていきたいと思えます。

パネル展開催にあたってのメッセージ

平成25年2月12日（火）からの第2期パネル展にあたり、会場提供等のご協力をいただいた東洋英和女学院様からも挨拶をいただきました。

「麻布未来写真館」パネル展の開催にあたって

港区麻布地区総合支所様より「麻布未来写真館」パネル展のお話をいただき、今年で3回目の参加となりました。長年にわたりこの地で教育の業に携わることができましたのも、ひとえに地域の皆様の温かいお支えによるものであり、感謝の思いでいっぱいでございます。

東洋英和女学院は、カナダ人宣教師のミス・カートメルが麻布鳥居坂の地に、キリスト教の教えに基づいた教育をおこなうために1884（明治17）年に設立された学校です。今年で129周年を迎えます。

幸いなことに、学院は太平洋戦争の空襲時にも戦火を免れ、明治時代からの写真資料をはじめとする数多くの資料が学院史料室に保管されております。

このようなパネル展の機会を与えられ、かつての学院の近隣の様子を写真でご紹介することで、皆様とこの地に対する思いを共有できますことを大変嬉しく思っております。

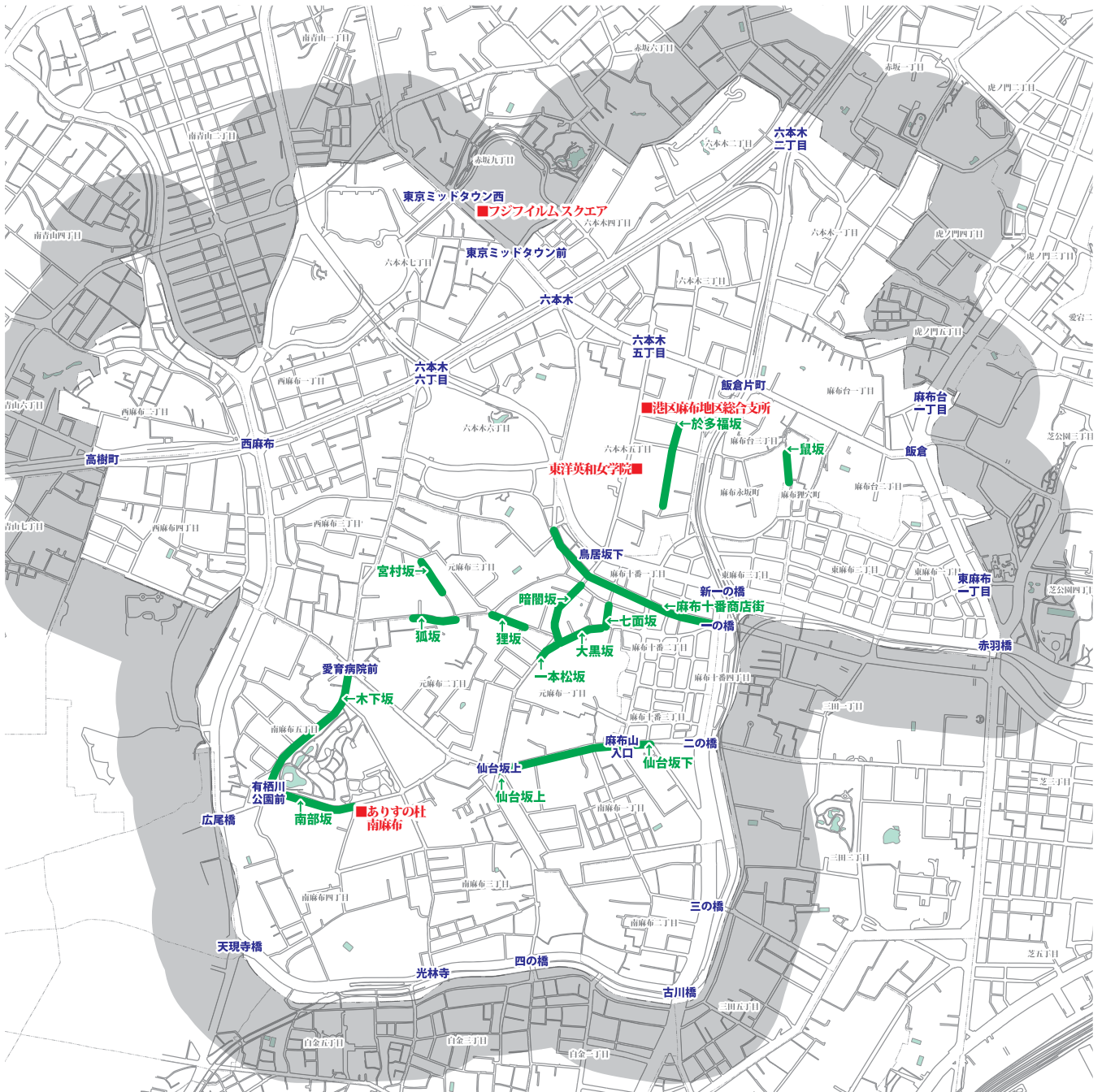
このパネル展が麻布地域の今後のさらなる発展のためにも意義深いものとなりますことをお祈りいたします。

平成25年2月 東洋英和女学院 理事長・院長 池田 守男

パネルの作成

パネルの作成にあたっては、「麻布未来写真館」事業で麻布のまちの変化を保存する取組として行っている「まち歩き（撮影）」での写真やパネル作成のために個別撮影した写真、また区民等から提供していただいた写真や資料を活用しました。

なお、「II. 分科会メンバー作成パネルの紹介」には、今年度の分科会活動で、関係機関などの協力のもと、写真・文献等の資料により、分科会メンバーが独自に調査し、作成したパネルの内容を掲載しています。



<写真について>

今年度作成した多くのパネルで新旧の比較を行っているが、必ずしも同一視点からの撮影にはなっていない。また、変化の様子をとらえるためにあえて周辺のまち並みも写してイメージの伝わる構図とした。

なお、写真に写っている個人や所有（車等）の特定を避けるため、さらに撮影条件、画像の経年劣化等を補うために軽微な画像加工を一部加えている。

麻布十番と周辺の山坂 木下坂 (きのしたざか)



昭和 50 年 (1975 年) : 木下坂 坂上から
【写真撮影: 田口政典 氏、写真提供: 田口重久 氏】



平成 22 年 (2010 年)



昭和 50 年 (1975 年) : 木下坂 坂下から
【写真撮影: 田口政典 氏、写真提供: 田口重久 氏】



平成 24 年 (2012 年)

有栖川宮記念公園の広尾側入口前から公園を右に見ながら上る坂。かつて右側の歩道は公園の高い塀がつづいていたが、その後の改修により塀は低いものになり、公園の中が見える。坂上には愛育病院があり、真っ直ぐ進むと六本木に達する。広尾の低地と六本木の台地を結ぶ坂とも言える。

麻布十番と周辺の山坂 南部坂 (なんぶざか)



昭和50年（1975年）：南部坂 坂下から
【写真撮影：田口政典氏、写真提供：田口重久氏】



平成24年（2012年）



昭和50年（1975年）：南部坂 坂上から
【写真撮影：田口政典氏、写真提供：田口重久氏】



平成24年（2012年）



平成21年（2009年）：南部坂 坂上から

有栖川宮記念公園の広尾側入口から公園を左に見て上る坂。右側にはスーパーマーケット、麻布南部坂教会、ドイツ大使館が並ぶ。一帯には外国人の居宅も多く、朝は仕事に赴くベビーシッターとおぼしき人たちの姿をよく見かける。忠臣蔵、「雪の別れ」の舞台で知られる南部坂は赤坂にある。

麻布十番と周辺の山坂 狐坂（きつねざか）



昭和50年（1975年）：
狐坂 坂上から

【写真撮影：田口政典氏、写真提供：田口重久氏】



平成23年（2011年）



昭和50年（1975年）：
狐坂 坂下から

【写真撮影：田口政典氏、写真提供：田口重久氏】



平成23年（2011年）

麻布十番からテレビ朝日通りへと ゆるやかな S 字を描いて登る。江戸時代からつづく古刹、本光寺や長玄寺（侠客金看板甚九郎やラグーサお玉の墓がある）が昔ながらのたたずまいを見せ、坂を上ってゆくと中国大使官邸もある。大隅坂とも呼ばれている。



昭和50年（1975年）：狐坂 坂上から

【写真撮影：田口政典氏、写真提供：田口重久氏】



平成22年（2010年）

麻布十番と周辺の山坂 狸坂 (たぬきざか)



昭和 59 年 (1984 年) : 狸坂 坂上から
【写真撮影: 田口政典 氏、写真提供: 田口重久 氏】



平成 23 年 (2011 年)



昭和 50 年 (1975 年) : 狸坂 坂下から
【写真撮影: 田口政典 氏、写真提供: 田口重久 氏】



平成 24 年 (2012 年)



昭和 50 年 (1975 年) :
狸坂 坂上から
【写真撮影: 田口政典 氏、
写真提供: 田口重久 氏



平成 24 年 (2012 年)

一本松から西に下る坂。急勾配なので滑り止め舗装が施されている。坂の下は、狐坂につながっている。麻布にも、夕ヌキやキツネが出没するほど自然が豊かな時代があったということだろうか。どちらの坂も『新撰東京名所図絵 麻布之部』(明治 35 年)に名前が挙げられている。

麻布十番と周辺の山坂 宮村坂 (みやむらざか)



昭和50年(1975年):
宮村坂 坂上から

【写真撮影: 田口政典氏、写真提供: 田口重久氏】



平成24年(2012年)



昭和50年(1975年):
宮村坂 坂上から

【写真撮影: 田口政典氏、写真提供: 田口重久氏】



平成24年(2012年)



昭和50年(1975年): 宮村坂 坂下から

【写真撮影: 田口政典氏、写真提供: 田口重久氏】



平成24年(2012年)

テレビ朝日通りにある麻布消防署の角から 旧宮村町を通り、麻布十番にむかって下る坂。途中、坂の両側に 橋のものと思われる古い欄干が残っている。その昔、水路をまたいでいた名残りでしょうか。下部一带には、かつて住宅が建ち並んでいたが、再開発されて落ちついた感じの集合住宅に生まれ変わり、路面も石畳になっている。

麻布十番と周辺の山坂 一本松坂 (いっぽんまつざか)



昭和 50 年 (1975 年) : 一本松坂から大黒坂方面を望む
【写真撮影 : 田口政典 氏、写真提供 : 田口重久 氏】



平成 24 年 (2012 年)



昭和 50 年 (1975 年) : 一本松坂 坂下から
【写真撮影 : 田口政典 氏、写真提供 : 田口重久 氏】



平成 23 年 (2011 年)



平成 24 年 (2012 年)

元麻布一丁目と二丁目の間を北東から南西へと上る坂道。明治 35 年に刊行された『風俗画報臨時増刊 新撰東京名所図会 麻布区之部』に、絵と文章で紹介されている。中世から高輪と麻布を結ぶ街道で、重要な坂道の一つであり、落語『黄金餅』や池波正太郎の時代小説『鬼平犯科帳「本門寺暮雪」等』にも登場する。坂上近くにある麻布氷川神社は、人気アニメ『セーラームーン』で、とりあげられたことでも知られている。

麻布十番と周辺の山坂 暗闇坂（くらやみざか）



昭和50年（1975年）：暗闇坂 坂上から
【写真撮影：田口政典氏、写真提供：田口重久氏】



平成24年（2012年）

旧麻布宮下町（現麻布十番一丁目）から旧一本松町（現在の元麻布三丁目と一丁目）へと上る坂道。明治35年に刊行された『風俗画報臨時増刊 新撰東京名所図会 麻布区之部』でも紹介されている。「江戸切絵図」（1861年改正）には「クラヤミ坂」と書かれており、坂上右側にはオーストリア大使館がある。左側は高い崖がつづき、坂道に樹木がおおいかぶさって非常に暗い感じがした。戦後しばらくはことにさびしく、追剥や痴漢が出没するため、夜など、とても女性や子どもの通れる道ではなかったと言われている。平成24年（2012年）に左側の建物が一部解体されたことから、空が広がった。



昭和50年（1975年）：暗闇坂 坂下から
【写真撮影：田口政典氏、写真提供：田口重久氏】



平成24年（2012年）

麻布十番と周辺の山坂 大黒坂 (だいこくざか)



昭和 50 年 (1975 年) : 大黒坂 坂下から
【写真撮影 : 田口政典 氏、写真提供 : 田口重久 氏】



平成 24 年 (2012 年)



昭和 50 年 (1975 年) : 大黒坂 坂下の商店街
【写真撮影 : 田口政典 氏、写真提供 : 田口重久 氏】



平成 24 年 (2012 年)



昭和 50 年 (1975 年) : 大黒坂 坂上から
【写真撮影 : 田口政典 氏、写真提供 : 田口重久 氏】



平成 24 年 (2012 年)



平成 24 年 (2012 年)

麻布十番二丁目七番から元麻布二丁目、一丁目へと上る坂道。
明治 35 年に刊行された『風俗画報臨時増刊 新撰東京名所図会 麻布区之部』で紹介されている。
坂下に大法寺があり、境内には港区七福神めぐりの一つ、大黒天が鎮座している。

麻布十番と周辺の山坂 七面坂 (しちめんざか)



昭和50年(1975年):七面坂 坂下から
【写真撮影:田口政典氏、写真提供:田口重久氏】



平成24年(2012年)



昭和50年(1975年):七面坂 坂上から
【写真撮影:田口政典氏、写真提供:田口重久氏】



昭和59年(1984年):七面坂 坂上から
【写真撮影:田口政典氏、写真提供:田口重久氏】



平成24年(2012年)

麻布十番二丁目七番と八番の間にある短い坂道。

戦前まで、坂の東側には本善寺があり、七面天女の木像が安置されていた。現在、本善寺は品川区東五反田三丁目6番1号にある。本善寺は1608年の創立で、七面天女は「麻布十番の七面天」と呼ばれ、毎月、1日と9日の縁日には、たいへんな賑わいを見せたと言われている。

麻布十番と周辺の山坂 仙台坂上 (せんだいざかうえ)



昭和 49 年 (1974 年) : 仙台坂 坂上から【写真提供 : 桜井昭一 氏】



平成 24 年 (2012 年)



昭和 54 年 (1979 年) : 仙台坂 坂上から【写真提供 : 桜井昭一 氏】



平成 24 年 (2012 年)

元麻布一丁目、三丁目と南麻布一丁目の間を東から西へと上る長い坂。特に坂上近くの傾斜が激しく、麻布十番に一時住んでいた北原白秋は、「仙台坂 石の車を ひきわびて 馬倒れたり 疲れけらしも」と詠んでいる。かつては坂上に商店街があり賑わっていたが、今はほとんど残っていない。

麻布十番と周辺の山坂 仙台坂下 (せんだいざかした)



昭和 54 年 (1979 年) : 仙台坂下から二之橋を望む
【写真提供 : 桜井昭一 氏】



平成 24 年 (2012 年)



昭和 50 年 (1975 年) : 仙台坂 坂下から
【写真撮影 : 田口政典 氏、写真提供 : 田口重久 氏】

坂を下って行くと右側に韓国大使館（現在改築中）が見える。左側にはかつて、イタリアンレストランがあったが、もはや“幻”。

坂下には「麻布山口」の標識。左側に善福寺の入口がある。右側は南麻布一丁目、二丁目であり、山口瞳、山口正介、高見順、小林多喜二等が住んでいた。真っ直ぐ進むと、道は二之橋へとつづく。



平成 24 年 (2012 年)

麻布十番と周辺の山坂 麻布十番商店街 (あざぶじゅうばんしょうてんがい)



昭和 48 年 (1973 年) : 麻布十番商店街
【写真提供 : 桜井昭一 氏】



平成 24 年 (2012 年)



昭和 48 年 (1973 年) : 一の橋交差点付近
【写真提供 : 桜井昭一 氏】



昭和 42 年 (1967 年) : 一の橋交差点付近
【写真撮影 : 田口政典 氏、写真提供 : 田口重久 氏】

『半七捕り物帳』などで有名な作家・岡本綺堂は関東大震災で焼き出され、その年の年末、知人の紹介で麻布十番に仮住まいしていた。「家の裏は崖であり庭も崖の裾の草堤が押し寄せており何か鬱々している。しかし家があるだけ幸せというものだ。年末の麻布十番の通りは凄い人出で下はぬかるんでおり下手すると転んでしまう。」などと記している(「十番雑記」1924 年)。商店街は大震災時の延焼をまぬがれたことから外部からの流入も多く、その後、賑わったという。第二次世界大戦時の空襲で一帯は瓦礫と化したのが、戦後、地元の人びとの努力によって復旧し、現在に至っている。



平成 24 年 (2012 年)

麻布十番と周辺の山坂 於多福坂 (おたふくざか)



昭和 50 年 (1975 年) :
於多福坂 坂上から【写真撮影: 田口政典 氏、写真提供: 田口重久 氏】



平成 24 年 (2012 年)
於多福坂 坂上から【写真撮影: 田口政典 氏、写真提供: 田口重久 氏】



昭和 50 年 (1975 年) :
於多福坂 中ほど【写真撮影: 田口政典 氏、写真提供: 田口重久 氏】



平成 24 年 (2012 年)
於多福坂 中ほど【写真撮影: 田口政典 氏、写真提供: 田口重久 氏】



昭和 59 年 (1984 年) : 於多福坂 坂上から
【写真撮影: 田口政典 氏、写真提供: 田口重久 氏】



平成 24 年 (2012 年)



昭和 50 年 (1975 年)
於多福坂 坂下から【写真撮影: 田口政典 氏、
写真提供: 田口重久 氏】



昭和 59 年 (1984 年)
【写真撮影: 田口政典 氏、写真提供:
田口重久 氏】



平成 24 年 (2012 年)

鳥居坂の東側を並行して北から南へと下る坂。坂を下る途中で一度なだらかになり、ふたたび急坂になるところが「お多福の顔のよう」だと言われたことから、この名がついたと伝えられている。坂下の右手には潮見坂という急坂があり、そこを上ると鳥居坂に、左手に行くと永坂につきあたる。坂上、坂下ともに大通りとながっていないため、見逃しやすい坂でもある。

麻布十番と周辺の山坂 鼠坂（ねずみざか）



昭和 59 年（1984 年）：鼠坂 坂下から
【写真撮影：田口政典 氏、写真提供：田口重久 氏】



平成 24 年（2012 年）



昭和 50 年（1975 年）：鼠坂 坂下から
【写真撮影：田口政典 氏、写真提供：田口重久 氏】



平成 24 年（2012 年）

狸穴公園の脇から麻布台に上がる細い坂道。上部は植木坂、鼬(いたち)坂とつながっている。江戸時代には狭く細長い坂を「鼠坂」と呼んだそうで、文京区音羽や新宿区市ヶ谷にも同名の坂がある。『鬼平犯科帳』の「麻布一本松」では、火付盗賊改方の役人が刺客の浪人とこの坂で刃を交えます。小説でも、実際と同様の崖沿いの細い坂道として描かれているので、作者の池波正太郎は、きっと、この坂を実見したうえで書いたのだろう。

麻布の交通「古川橋付近」



昭和 44 年（1969 年）：古川橋交差点より明治通り、天現寺交差点方面を望む。

【写真撮影：田口政典 氏、写真提供：田口重久 氏】



平成 24 年（2012 年）：古川橋交差点



昭和 44 年（1969 年）：古川橋交差点より、麻布十番方面を望む。

【写真撮影：田口政典 氏、写真提供：田口重久 氏】



平成 24 年（2012 年）：桜田通り

新旧写真を比較すると、桜田通り沿いの銀杏並木の成長ぶりがうかがえる。



昭和 42 年（1967 年）：古川橋交差点より白金高輪駅方面を望む。

【写真撮影：田口政典 氏、写真提供：田口重久 氏】



平成 24 年（2012 年）：古川橋交差点

白金高輪に向かう国道一号線はこの後に作られた。都電の線路がある道は魚籃坂方面に続いていた。

麻布の交通「麻布十番付近」



昭和42年(1967年):二の橋交差点付近より、麻布十番方面を望む。
【写真撮影:田口政典氏、写真提供:田口重久氏】



平成24年(2012年):二の橋交差点付近



昭和42年(1967年):一の橋交差点付近から、新一の橋方面を望む。
建設中の首都高速道路「一ノ橋ジャンクション」。
【写真撮影:田口政典氏、写真提供:田口重久氏】



平成24年(2012年):新一の橋交差点付近



平成24年(2012年):一の橋交差点付近(3点とも)



麻布の交通「天現寺橋付近」



昭和 40 年頃（1965 年頃）：広尾病院付近から、天現寺橋交差点、南麻布方面を望む。
【写真提供：豊田幸雄 氏】



昭和 40 年頃（1965 年頃）：天現寺橋交差点
【写真提供：豊田幸雄 氏】



平成 25 年（2013 年）：天現寺橋交差点

分科会メンバー作成パネルの紹介 麻布の交通「天現寺橋付近」／麻布の交通

麻布の交通

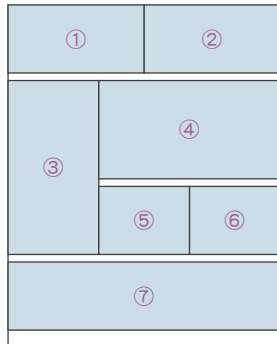


- ①②平成 25 年（2013 年）：広尾駅
- ③④平成 24 年（2012 年）：麻布十番駅
- ⑤⑥平成 24 年（2012 年）：六本木駅
- ⑦ 平成 25 年（2013 年）：ちいばす
- ⑧ 平成 24 年（2013 年）：六本木駅
- ⑨⑩平成 24 年（2012 年）：六本木一丁目駅
- ⑪ 平成 24 年（2012 年）：ちいばす
- ⑫ 平成 24 年（2012 年）：六本木一丁目駅
- ⑬ 平成 24 年（2012 年）：六本木駅
- ⑭ 平成 24 年（2012 年）：都バス
- ⑮ 平成 24 年（2012 年）：ちいばす
- ⑯ 平成 24 年（2012 年）：六本木交差点
- ⑰ 平成 24 年（2012 年）：都バス
- ⑱ 平成 24 年（2012 年）：自転車とチャイルドトレーラー
- ⑲⑳平成 25 年（2013 年）：ちいばす

①	②	③	④
⑤	⑥	⑦	⑧
⑨	⑩	⑪	⑫
⑬	⑭	⑮	⑯
⑰	⑱	⑲	⑳

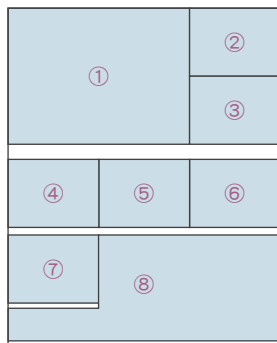
麻布の祭り (1)

- ①平成 24 年 (2012 年) : 日赤通り祭り
- ②平成 24 年 (2012 年) : 霞町祭り
- ③平成 24 年 (2012 年) : かかし祭り
- ④平成 24 年 (2012 年) : ドイツフェスティバル
- ⑤平成 24 年 (2012 年) : 酉の市 (麻布十番)
- ⑥平成 24 年 (2012 年) : 酉の市 (麻布十番)
- ⑦昭和の記録——古いアルバムから麻布地区のお祭りの写真をまとめました。



麻布の祭り (2)

- ①平成 24 年 (2012 年) : 麻布十番納涼祭り
- ②平成 24 年 (2012 年) : 麻布十番秋祭り
- ③平成 24 年 (2012 年) : 麻布十番秋祭り
- ④平成 24 年 (2012 年) : 麻布十番秋祭り
- ⑤平成 24 年 (2012 年) : 麻布十番秋祭り
- ⑥平成 24 年 (2012 年) : 麻布十番秋祭り
- ⑦平成 24 年 (2012 年) : 麻布十番秋祭り
- ⑧昭和の記録——古いアルバムから麻布地区のお祭りの写真をまとめました。



公園の今と昔 網代公園 (あみしろこうえん)



平成 6 年 (1994 年)
【写真撮影: 田口政典 氏、写真提供: 田口重久 氏】



平成 24 年 (2012 年)



平成 6 年 (1994 年)
【写真撮影: 田口政典 氏、写真提供: 田口重久 氏】



平成 24 年 (2012 年)

網代公園は戦後復興の中、昭和 24 年に作られた公園である。昔は納涼大会の催しで「お化け屋敷」が登場した。

周囲の風景は少しずつ変化しているが、公園そのものはあまり変わらない。



平成 24 年 (2012 年)



平成 6 年 (1994 年) : 【写真撮影: 田口政典 氏、写真提供: 田口重久 氏】

公園の今と昔 筈公園 (こうがいこうえん)



昭和50年(1975年)
【写真撮影：田口政典氏、写真提供：田口重久氏】



平成24年(2012年)



昭和50年(1975年)
【写真撮影：田口政典氏、写真提供：田口重久氏】



平成24年(2012年)

区立筈小学校と道を挟んで西側に隣接する公園。公園ができる以前、昭和40年頃(1965年頃)まで、ここには木造の公営住宅がまばらに建っていた。その空き地に、午後になると紙芝居屋さん、型押し粘土屋さん、日光写真屋さんなどがやって来て、町内の子供たちが集まっていた。



平成23年(2011年)



平成24年(2012年)



平成25年(2013年)

麻布から見た富士山



平成 24 年（2012 年）：六本木ヒルズ展望台より見た富士山。



平成 24 年（2012 年）：新富士見坂

かつては、麻布の台地からはるか西に富士山を望むことができた。ビルやマンションが建ち並ぶ現在、もはや街中からその姿を拝むことはできず、「富士見坂」という坂の名だけが残されている。



昭和 50 年（1975 年）：富士見坂【写真撮影：田口政典氏、写真提供：田口重久氏】



平成 21 年（2009 年）：富士見坂



右の絵は、高速道路が建設される前の霞町周辺（西麻布一・三丁目一帯）の街並みと、そこから眺めた富士山の姿を思い出しながら描いたもの。下の写真は麻布十番三丁目にある建物の 12 階からの眺め。

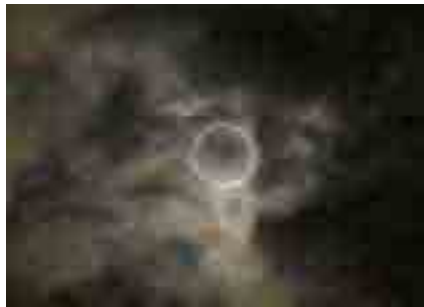


平成 24 年（2012 年）：麻布から見た富士山（3 点とも）。

麻布で見た金環日食



午前7時29分



午前7時35分



午前7時43分

平成24年5月21日、日本南岸沿いの広い範囲で金環日食が見られた。東京都内も中心帯に当たり、雲の合間を通して、リングになった太陽を観望することが出来た。リングになる最大食分は7時34分30秒頃。この瞬間を見ようと、有栖川宮記念公園にも早朝から多くの人々が集まった。



金環日食をひと目見ようと、有栖川宮記念公園に集まった人々。



太陽の約87%が月に隠されると、夕方のような暗さに。それに反応して園内の照明が灯った。



肉眼での太陽（日食）観測の際には必ず「日食グラス」を使ってください。太陽は決して直接肉眼で見えてはいけません。失明の危険があります。【資料：NAOJ】



太陽がリング状になると、三日月状になった「木漏れ日」が地面に沢山写し出された。

麻布から見た東京タワー



昭和 50 年（1975 年）：稲荷坂 坂上から
【写真撮影：田口政典 氏、写真提供：田口重久 氏】



平成 24 年（2012 年）



昭和 34 年（1959 年）：麻布十番方面望む
【写真提供：小山浩 氏】



平成 24 年（2012 年）

当時は 11 階建ての都の公社住宅・ツインーの橋が麻布十番で一番の高層建築だった。現在は高いビルに囲まれ、その住宅を見ることはできない。



平成 24 年（2012 年）：修復中の東京タワー

幅広い年代の人たちから愛される東京タワー。東京スカイツリーができてからも、東京のシンボルとして根強い人気を見せている。平成 23 年（2011 年）3 月 11 日に発生した東日本大震災の影響で、先端のアンテナが傾いた東京タワー。その御、修復作業が行われ、曲がった先端部を含むアンテナ部分約 20 メートルを撤去、無事に交換された。工事の様子は麻布からも見守ることができた。

高いところから麻布



昭和 39 年（1964 年）：六本木五丁目付近
【写真提供：東洋英和女学院】

左側に見える広い道路は現在の永坂。その後、ここに高速道路が作られた。中央を縦に走る道は、麻布地区総合支所の正面出入口がある鳥居坂につながる通り。左手に東洋英和女学院の校舎と校庭、右手には国際文化会館の建物と庭園が見えている。



平成 24 年（2012 年）：六本木五丁目

ロアビル上層階より、上の写真とほぼ同じ方向で撮影。

右側の写真 4 点は、いずれもアークヒルズ 仙石山森タワーから平成 24 年（2012 年）に撮影。



皇居方面



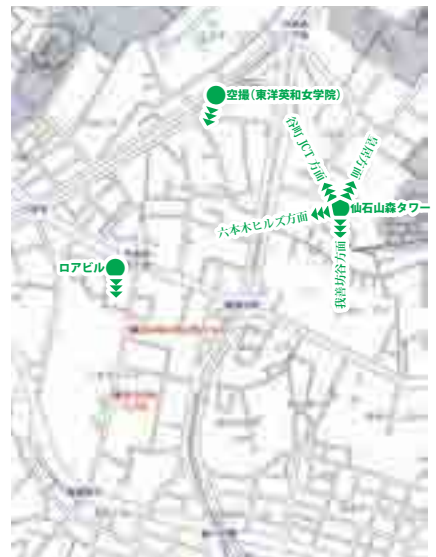
谷町ジャンクション方面



六本木ヒルズ方面



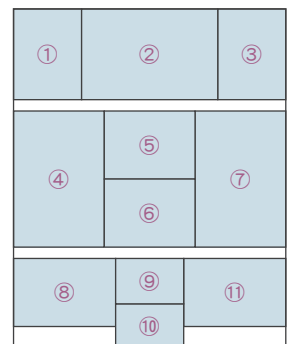
我善坊谷方面



私の好きな麻布



- ①平成 24 年 (2012 年) : 不思議な木 (南麻布四丁目)
- ②平成 21 年 (2009 年) : 櫻田神社 (西麻布三丁目)
- ③平成 23 年 (2011 年) : さくら坂公園脇の階段
- ④平成 24 年 (2012 年) : 東京タワー (アークヒルズ 仙石山森タワーから)
- ⑤平成 24 年 (2012 年) 4 月 : 入学式
- ⑥平成 24 年 (2012 年) : けやき坂
- ⑦平成 24 年 (2012 年) : 雨上がりの路地 (南麻布五丁目)
- ⑧平成 24 年 (2012 年) : 明治通りのいちよう
- ⑨平成 24 年 (2012 年) : 東京タワー
- ⑩平成 24 年 (2012 年) : 東京タワー
- ⑪平成 24 年 (2012 年) : 有栖川宮記念公園のサギ



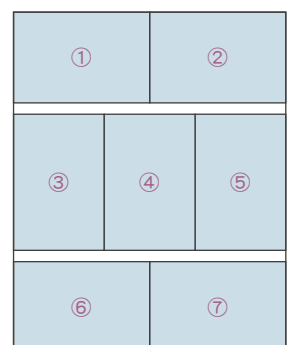
分科会メンバー作成パネルの紹介 私の好きな麻布／古い麻布の写真 昭和の記録

古い麻布の写真 昭和の記録



- ①昭和 52 年 (1977 年) : 旧麻布谷町 (六本木三丁目付近)
- ②昭和 50 年 (1975 年) : 仙台坂上
- ③昭和 49 年 (1974 年) : 旧麻布消防署 (南麻布五丁目付近)
- ④昭和 52 年 (1977 年) : 六本木一丁目付近
- ⑤昭和 52 年 (1977 年) : 二の橋バス停付近
- ⑥昭和 43 年頃 (1968 年頃) : 天現寺橋交差点
- ⑦昭和 43 年頃 (1968 年頃) : 天現寺橋交差点

写真提供 (①～⑤) : 桜井昭一 氏
 写真提供 (⑥～⑦) : 豊田幸雄 氏



パティオ十番

- ①平成 24 年 (2012 年) 7 月 8 日
- ②平成 24 年 (2012 年) 11 月 14 日
- ③平成 24 年 (2012 年) 9 月 23 日
- ④平成 24 年 (2012 年) 12 月 23 日
- ⑤平成 24 年 (2012 年) 11 月 25 日
- ⑥平成 24 年 (2012 年) 10 月 27 日
- ⑦平成 24 年 (2012 年) 12 月 23 日
- ⑧平成 24 年 (2012 年) 12 月 13 日
- ⑨平成 24 年 (2012 年) 12 月 31 日
- ⑩平成 24 年 (2012 年) 12 月 23 日
- ⑪平成 25 年 (2013 年) 1 月 26 日
- ⑫平成 25 年 (2013 年) 1 月 2 日

パティオは空襲で焼け野原になった十番商店街の区画整理の中で誕生した。現在の大黒坂下、雑色通りから麻布十番駅に抜ける道は戦後、新たに作られたもので、その一部を拡張し、中央に設けられた広場がパティオの原点。若かりし頃の加山雄三が歌と演奏を披露するなど、そこは最先端のスペースだった。現在のパティオが完成したのは昭和 61 年 (1986 年)。界隈はドラマのロケでよく使われるなど、お洒落な場所として、今もたくさんの人に愛されている。

①	②	③
④	⑤	⑥
⑦	⑧	⑨
⑩	⑪	⑫



パティオは空襲で焼け野原になった十番商店街の区画整理の中で誕生した。現在の大黒坂下、雑色通りから麻布十番駅に抜ける道は戦後、新たに作られたもので、その一部を拡張し、中央に設けられた広場がパティオの原点。若かりし頃の加山雄三が歌と演奏を披露するなど、そこは最先端のスペースだった。現在のパティオが完成したのは昭和 61 年 (1986 年)。界隈はドラマのロケでよく使われるなど、お洒落な場所として、今もたくさんの人に愛されている。

麻布の空

- ①平成 24 年 (2012 年)：幻日
- ②平成 24 年 (2012 年)：夜空 (六本木一丁目)
- ③平成 24 年 (2012 年)：六本木ヒルズ展望台から見た「麻布の空」と東京タワー。
- ④平成 24 年 (2012 年)：元麻布二丁目付近から
- ⑤平成 24 年 (2012 年)：六本木五丁目から
- ⑥平成 24 年 (2012 年)：六本木ヒルズ展望台から
- ⑦平成 24 年 (2012 年)：スーパームーン
- ⑧平成 24 年 (2012 年)：

①	②
	③
④	⑤
⑥	⑦
	⑧

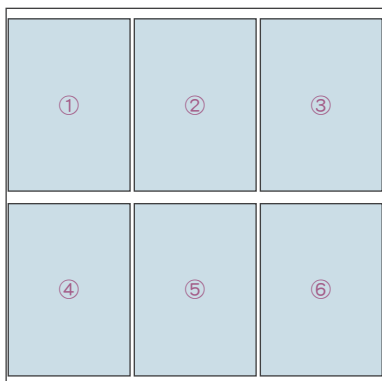


分科会メンバー作成パネルの紹介 パティオ十番／麻布の空

分科会メンバー作成パネルの紹介

フジフィルム スクエア ミニギャラリーでの展示パネル (1)

分科会メンバー作成パネルの紹介 フジフィルムスクエアミニギャラリーでの展示パネル (1)



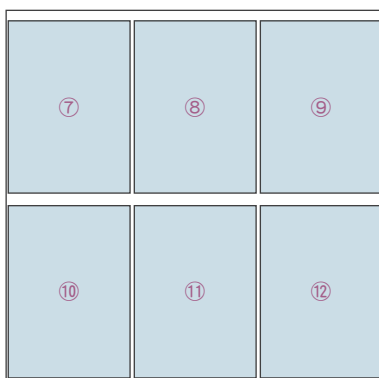
- ①六本木七丁目 (東京ミッドタウン西交差点)
- ②防衛庁→東京ミッドタウン
- ③東京大学生産技術研究所→国立新美術館
- ④芋洗坂
- ⑤東京タワー
- ⑥今なお流れる麻布の水脈

写真提供 (③) : 小山浩 氏
 写真提供 (④) : 港区立港郷土資料館
 写真提供 (⑤) : 六本木商店街振興組合

フジフィルム スクエア ミニギャラリーでの展示パネル (2)



分科会メンバー作成パネルの紹介 フジフィルムスクエア ミニギャラリーでの展示パネル (2)



- ①「麻布七不思議」ー江戸と今 (1)
- ②「麻布七不思議」ー江戸と今 (2)
- ③文人の足跡をたずねて (龍土軒)
- ④文人の足跡をたずねて (永井荷風)
- ⑤文人の足跡をたずねて (島崎藤村)
- ⑥文人の足跡をたずねて (内藤鳴雪)

写真撮影 (⑨～⑫) : 田口政典 氏、写真提供 (⑨～⑫) : 田口重久 氏

参考文献 (⑦～⑧) : 『東京都江戸東京博物館研究報告—第5号』(東京都江戸東京博物館)、『江戸東京伝説散歩』(青蛙房) 等

参照サイト (⑨～⑫) :

「港区ゆかりの人物データベース」

(<http://www.lib.city.minato.tokyo.jp/yukari/j/>)

「港区産業観光ネットワーク MINATO あらかると」

(<http://www.minato-ala.net/sightseeing/welcome/root59/index.html>)

これまでの活動を振り返って

副座長 小山浩

平成 24 年度のパネル展の一部は「麻布十番と周辺の山坂」と称して、多くの坂の新旧比較を行いました。現在の写真を写すために坂を上っていて気が付いたことがあります。

麻布の坂は坂上に近づくほど傾斜が厳しくなる。例えば大黒坂は麻布十番から上っていき一本松が左手に見えるころからが厳しい。単に上り疲れたからそう感じるのかもしれませんが、同じことは仙台坂にも言えます。

そのような麻布十番の近くを歩いていると、最近「まち歩き」の人を多く見かけます。お一人、ご夫婦、団体といろいろですが、ご年配の方だけではなく若い人も多くなっています。一回だけではなく何回も麻布に来ていただきたいものです。

平成 25 年度も何とか良い企画で頑張りたいと思います。

写真は麻布十番の建物の上から写した富士山です。港区の地面から富士山が見えるところがほとんどないようですが、麻布のどこからか富士山が見えるところはないでしょうか？



メンバー 鈴木順二

麻布未来写真館のメンバーに加えていただいて、麻布の今を写真として記録に残しています。

今、私たちが撮っている平成の街の姿を、20 年後、30 年後に、私たちの子や孫が見たとき、どのような感想をもつでしょう。「昔、麻布の空はこんなに広がったんだね〜。」高層ビルが筍のようにニョキニョキと伸びて、麻布の空が年々狭くなってゆくのを見ていると、そんな感想を漏らすようにならないか、少々心配です。この広々とした気持ちのよい青空を、未来の区民も眺められますように。



メンバー 椿由美子

軒下でのんびりとタライの水を飲む猫。玄関脇に置かれた牛乳箱。花から花へと移り飛ぶミツバチ。路傍に咲く真っ赤なサルビア。夏と秋、それぞれのまち歩きで出会った情景です。

麻布の風景にみごとに溶け込んでいる建造物といえば東京タワー。えもいわれぬ愛着を感じるのは、圧倒的な造形美はもちろん、ほんのりと昭和の匂いを思い起こさせてくれるからかもしれません。

「麻布未来写真館」の活動に参加させていただいて3年。同じ道も、通るたびに新しい発見があり、楽しみは増すばかりです。

今年もパネル展を通じて、まちの歴史やぬくもりを、たくさんの方々と分かち合えたことに感謝しております。みなさま、ありがとうございました。



メンバー 増子照孔

4年間を回顧して、役に立つ事をしているのか、住民のためになる事があったのか等、自問自答しております。麻布に育っても麻布の建物を記憶していない方もいることを知りましたが、ただ、事実・真実を伝えていきたいと反省しております。知らない事は労力を惜しまず、きちんと検証して伝えていく事が大切であると思いました。多くの知らない方は冊子やパネル展を見てそれを信じてしまいますし、30年位前の事は知っている方も多いと思うし、ご存知の方はどう思われるかと不安になり自分の存在まで不安になります。事実をきちんと表現していきたい。そんな思いで今は反省あるのみです。世の中にはそういうことは多々あるかも知れません。過去の事を知らないまま、表現を見て信じてしまう事は怖いことでもあり悲しい事でもあると思いました。

東京タワーができ、あの芝公園の森に東京プリンスホテルができ、どちらが先か覚えていません。東京タワーはあるのが当たり前のような毎日見た生活を思うと、田舎生まれの私にはまつわる思い出も多く空気のような存在に思います。

メンバー 渡辺美恵子

皆さんとの議論、そして実際のまち歩き（撮影）を通して、写真を、いかに歴史的資料として撮るべきかを考える貴重な機会でした。

また、講師の先生からも講評いただき、大変勉強になりました。いろいろと大変お世話になりました。ありがとうございました。



これまでの活動を振り返って

メンバー 岡崎純子



「麻布未来写真館」のメンバーに加えていただき、3年目になりました。

最近では、日頃からコンパクトデジタルカメラを持ち歩いて、四季折々の麻布の情景を撮影することが、楽しみになりました。

この一年も多くの皆様のご協力に支えられて、「麻布未来写真館」の活動ができたと思っております。ありがとうございました。

平成 25 年（2013 年）1 月 15 日：雪の日の翌日の一本松

メンバー 天羽大器

平成 21 年度から始まった麻布未来写真館も 4 年度目を迎えた。これまでに作成したパネルも約 150 になる。本年度は麻布十番をメインにパネルを作成した。私は麻布十番と周辺の山坂というパネルの作成に取り組んだ。麻布は坂の多い地域である。来年度以降もこの取組は続く。これまでのまち歩きで私は坂、川跡、階段を中心に写真を撮って来た。来年度は階段のパネルを作成したいと思っている。

かつて麻布にあって、現在は他地域にある建物が数多くある。旧麻布区役所、麻布鬼子母神、仰光寮、三井八郎右衛門邸、尾崎行雄青山邸、南葵文庫、鍋島公爵邸、旧東京天文台があげられる。こうした資源をテーマにしたパネルを来年度、作成したいと思っている。

「麻布未来写真館」は大人の文化祭的要素を含んだ事業である。皆さんも是非参加してみてください。

メンバー 横島久子

今回も未来に残しておきたい写真を撮りながら、麻布のまちを、坂を歩きました。そして心に残る映像はいろいろありましたが、その中で、六本木の街角に立ったとき、改めて、かつて見た風景を思い出し、心が熱くなりました。それは、高速道路のない広い空と、ゆったり走る都電の向こうに、ポッカリ浮かんでみえる富士山の凜とした姿です。

私がときどき子どもの手をひき、六本木から霞町（現在の西麻布）に向かって、和泉屋、パンドラのお菓子を、ちょっと贅沢をして、クローバーのケーキを買いに出かけた折に、幼い息子と一緒に眺めた至福の一齣です。今は高いビルの上からその風景を望むことができます。高層ビルが立ち並ぶ間から眺める美しい富士山も麻布ならではの風景ではないでしょうか。



メンバー 入江誠

古い麻布のまちの写真を手にすると真っ先に気付くことは、その頃の麻布には広さがあったことです。広々とした交差点、上り下りの坂が三次元の広さを造っていました。また、老舗が立ち並ぶ路地、一言で表すと“ゆとりのまち麻布”とのイメージがぴったりでした。近代都市化が進むと、次々と高層ビル建ち、高速道路ができ、道路は車で満たされ、あっという間に麻布のまちが深い谷間に沈んでいくように思えます。その中でも、昔の場所で、昔のままのかたちで寺院、神社、教会などが立ち並んでいます。児童公園でも元気な声を出して遊んでいる子どもたちの姿は変わってはいません。まだまだ、掘り起こす“ねた”が一杯です。そんなことを考えながらのまち歩き、新しい発見を求めて、これからもシャッターを切り続けていきます。



メンバー 水野禮子

「麻布未来写真館」に参加して良かったと思うことは、麻布の伝統が息づく風情を感じるまち並みや歴史的建造物など、何度も訪れたいくなる魅力的なまちを勉強ができて、過去の思い出に触れられたことです。

区民の方にとっても、いろいろな思い出が再現できることは良いことと思いますし、麻布のまちの変化を「麻布未来写真館」に懐かしく想いを寄せられることができたなら素晴らしいと思います。

今回のパネル展は、麻布十番と周辺の山坂（新旧写真の比較）、お祭り（古い写真と今年度撮影した組み写真）、交通関連（都電・都バス、新旧写真の比較）などです。

メンバー 櫻井綾

私事ですが出産後もこの事業に参加させていただき、周りの皆様に感謝申し上げます。

そして、産後初めて一人身軽な体で歩いたまち歩きでは、巨大な建物やオブジェに再び圧倒され、公園の緑と空にはほっと一息をついたものです。その最後、麻布十番駅で「親子像」に遭遇。妙に気になる存在なのは、母となったせいでしょうか。



麻布十番駅前にて 親子（?!）像

これまでの活動を振り返って

座長 近藤敏康

おかげさまで、「麻布未来写真館」事業も、多くの関係者の方々のご尽力とご協力、ご参加のメンバーの方々の活動や、パネル展をご覧いただいた方々の叱咤激励や、古い写真をご提供下さった方々のおかげで、無事4年目を終了することができました。

本年度は活動内容の展示場所として、従来のパネル展に加え、麻布地区総合支所2階の廊下壁面、有栖川宮記念公園事務所のショーケースに、常設でパネルの展示をしていただくことが実現するなど、展示場所と展示期間の拡大が実現しました。

また、新たに制作したパネルでは、統一したテーマの中、新旧の比較や本年のトピックスの充実、一年の中での定点の撮影、高い場所の見学と撮影、地図を積極的に取り入れた試みなど、将来のホームページでの公開に向けた準備や試行錯誤も含め、各種取組を実施することもできました。

来期は、かねてよりご要望をいただいていた、麻布地区総合支所のホームページでの「麻布未来写真館」パネル展の公開などを含め、ご参加の方々にも、ご覧いただく方々にも笑顔が広がる活動ができればと考えております。

一方、初年度に作成したまち並みのパネルが、ここ4年間の変化により貴重な記録となるなど、改めて麻布地区の変化の速さに気付かされるとともに、まち並みの写真を継続して撮影することの大切さを改めて感じた一年ともなりました。

今後とも「麻布未来写真館」をよろしくお願いいたします。



筈公園の新遊具ごしに見る、外苑西通りで建設中のタワーマンション。

講師 達川清 (フォトグラファー)

「麻布未来写真館」参加メンバーの皆さんは本当に熱心です。新たにメンバーを迎えいっそう楽しい活動になりました。

大地震後の経緯度原点の移動、雨の中、三鷹天文台見学。夏の酷暑にもめげずの「まち歩き」撮影。ユニークなテーマ選び、古い写真の提供もありがたく、内容もより深くなってきました。

写真の良さも一段と上達して嬉しい限りです。



分科会活動記録（平成 24 年度）

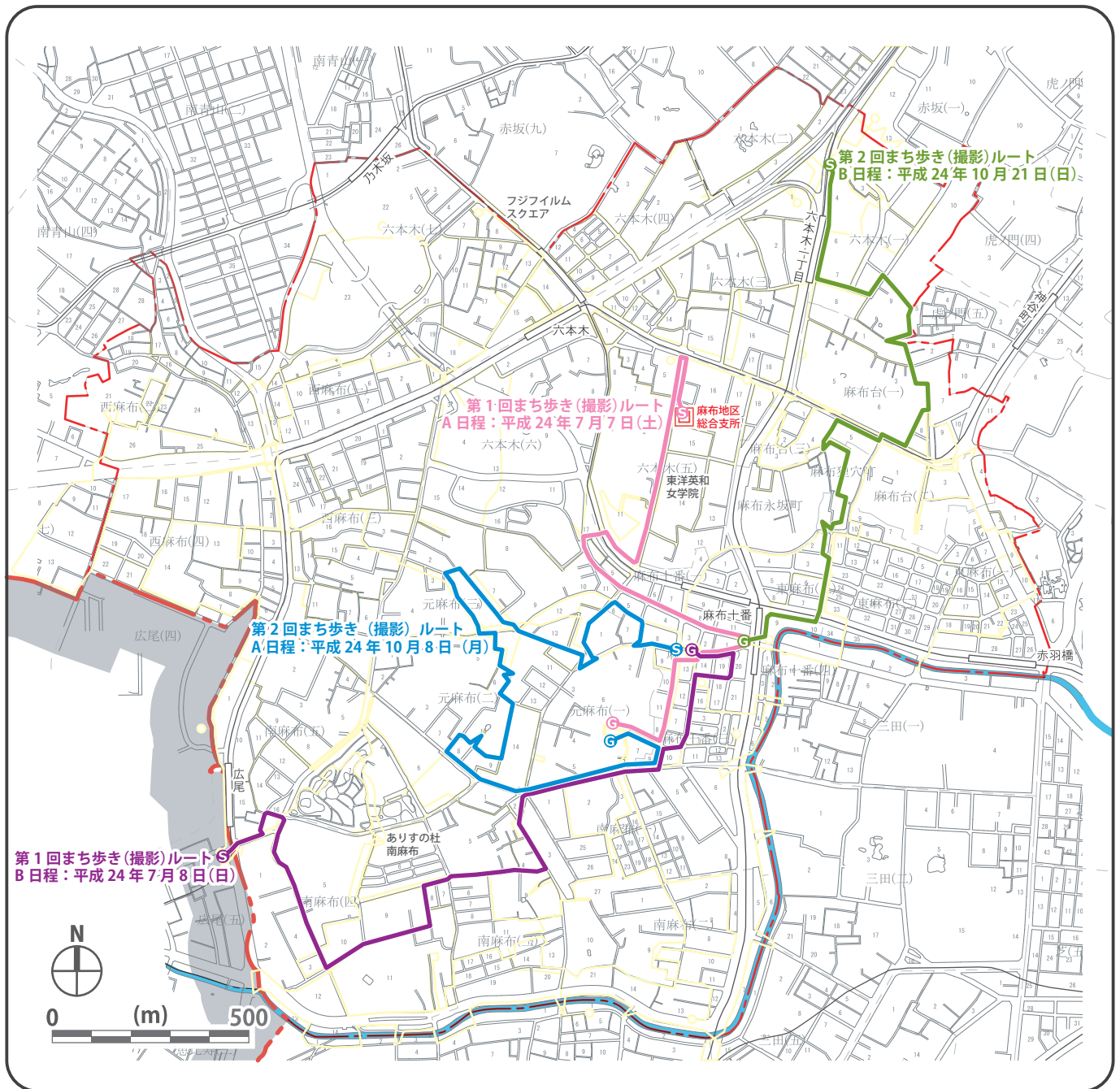
- 平成 24 年 6 月 12 日 第 1 回分科会 (メンバー紹介、平成 24 年度の活動について)
- 7 月 2 日 第 2 回分科会 (今年度の活動・まち歩きについて)
- 7 月 7 日 第 3 回分科会 (第 1 回まち歩き・撮影：A 日程)
- 7 月 8 日 第 3 回分科会 (第 1 回まち歩き・撮影：B 日程)
- 7 月 30 日 第 4 回分科会 (撮影結果・パネル展の方向性について)
- 9 月 6 日 第 5 回分科会 (今後の展示・パネル展の方向性について)
- 9 月 27 日 第 6 回分科会 (今後の予定・まち歩きについて)
- 10 月 8 日 第 7 回分科会 (第 2 回まち歩き・撮影：A 日程)
- 10 月 21 日 第 7 回分科会 (第 2 回まち歩き・撮影：B 日程)
- 10 月 31 日 第 8 回分科会 (今後の予定・撮影結果・パネル内容について)
- 11 月 12 日 第 9 回分科会 (パネル展・パネル作成について)
- 11 月 29 日 第 1 回WG (パネル作成のためのワーキング)
- 12 月 5 日 第 2 回WG (パネル作成のためのワーキング)
- 12 月 10 日 第 3 回WG (パネル作成のためのワーキング)
- 12 月 13 日 第 10 回分科会 (パネル展・パネル作成について)
- 平成 25 年 1 月 16 日 第 11 回分科会 (パネル展・パネル作成について)
- 2 月 1 日 パネル展 フジフィルム スクエア ミニギャラリー (～ 2/14)
- 2 月 6 日 第 12 回分科会 (今後の予定・パネル展について)
- 2 月 12 日 パネル展 東洋英和女学院史料展示コーナー (～ 2/22)
- 2 月 12 日 パネル展 ありすの杜南麻布地域交流スペース (～ 2/22)
- 2 月 12 日 パネル展 港区麻布地区総合支所ロビー (～ 2/22)
- 3 月 4 日 パネル展 港区役所ロビー (～ 3/15)
- 3 月 4 日 第 13 回分科会 (今年度の活動・今後の活動について)



分科会の様子（パネル作成に向けた画像選定）

まち歩き（撮影）ルート図

今年度の分科会活動では、「麻布未来写真館」事業で麻布のまちの変化を保存する取組として行っている「まち歩き（撮影）」を下図の撮影ルートにより計4回実施しました。



参考資料
まち歩き（撮影）
ルート図



まち歩き（撮影）の様子



まち歩き（撮影）の様子

港区平和都市宣言

かけがえのない美しい地球を守り、世界の恒久平和を願う人びとの心は一つであり、いつまでも変わることはありません。

私たちが真の平和を望みながら、文化や伝統を守り、生きがいに満ちたまちづくりに努めています。

このふれあいのある郷土、美しい大地をこれから生まれ育つ子どもたちに伝えることは私たちの務めです。

私たちは、我が国が『非核三原則』を堅持することを求めるとともに、ここに広く核兵器の廃絶を訴え、心から平和の願いをこめて港区が平和都市であることを宣言します。

昭和 60 年 8 月 15 日

港 区

麻布を語る会「麻布未来写真館」分科会 平成 24 年度 活動報告

刊行物発行番号
24213-1435

平成 25 年（2013 年）3 月 発行

発行 港区 麻布地区総合支所 協働推進課

〒106-8515 東京都港区六本木 5 丁目 16 番 45 号

電話 03-5114-8812

《主な参考文献・資料等》：増補 写された港区 三（麻布地区編）～麻布・六本木ほか～ 港区教育委員会

《古い写真等についての提供及び資料等》：港区立港郷土資料館、小山浩氏、桜井昭一氏、田口重久氏、豊田幸雄氏、JAXA/ISAS、NAOJ（順不同）

《技術・会場協力等》：達川清氏（フォトグラファー）、フジフィルム スクエア（富士フィルム株式会社）、学校法人東洋英和女学院、ありすの杜 南麻布、森ビル株式会社（順不同）

©禁無断転載複製

ファインダーをとおして、
未来に向けた新しい麻布を発信していきます。

麻布を語る会「麻布未来写真館」分科会 平成 24 年度 活動報告
港区麻布地区総合支所

港区麻布地区総合支所では、区民や企業等と協働し、麻布地区の昔の写真などを収集するとともに、定点写真を撮影し、麻布のまちの変化を保存する取り組みとして「麻布未来写真館」事業を実施しています。



「麻布未来写真館」
ファインダーをとおして、未来に向けた新しい麻布を発信していきます。
麻布を語る会「麻布未来写真館」分科会
平成 24 年度 活動報告
港区麻布地区総合支所

表紙の写真

①昭和 44 年（1969 年）：古川橋交差点より明治通り、天現寺橋交差点方面を望む。

②平成 24 年（2012 年）：古川橋交差点

③昭和 56 年（1981 年）：龍土軒発祥の地〔六本木七丁目〕

④平成 24 年（2012 年）：龍土軒発祥の地〔六本木七丁目〕

【写真撮影：田口政典氏、写真提供：田口重久氏】（写真①及び写真③）